

香芝市国際交流市民の会



グローバル香芝



あの留学生は今...⑩ モンゴル インドラさん



こんにちは!私は白鳳女子短大に2003年から2005年まで勉強していた Indra です。
2003年私はモンゴル大学の3年として勉強していたころに日本に行くチャンスがありました。
初めは余り行こうとは思っていませんでしたが、母国と全然違う外国だと考えたら行く気になりました。でも、私は全然日本語がはなせなかったのも、正直心配がありました。どうやって勉強しようかな、英語で話せるかなと考えるのが頭の中で回っていました。

関西国際空港に5人のモンゴル学生が降り立ちました。その中の2人は日本語専攻の大学の3年生で、私を含め残りの3人は全然日本語が話せませんでした。降りた時に英語の話せる白鳳の先生が迎えに来て下さりすごく嬉しく、これなら日本の生活も大丈夫と思いました。
しかし、入学式で全部日本語で話されたら、どうしようかなと不安でした。初めて日本語を勉強するクラスに入り、私は頑張らないと生活ができない、しかし、みんなは出来るのになぜ私だけ出来ないのかと思ひ、早く上達しようと一生懸命頑張りました。

最初はグローバル香芝のホームステイプログラムに参加して日本語の練習をし、だんだん上達していきました。その後ボランティアの人たちと日本語会話授業に入って、Yさんと初めて知り合いになりました。Yさんとは授業だけでなく、家にも何回も行き、会話がいつでも出来るように仲良くしました。今でもYさんとはネット会話をして連絡し合ってモンゴルにも何回も来てくれて、家族のように付き合っています。Yさんは私の事を自分の娘のように可愛がってくれる優しい人です。

日本で勉強するためにアルバイトをしたのは私にとっては良い経験になって、日本の生活がよくわかるようになりました。最初は工場で働いて、会話のできる時間は少なかったが、その次に奈良県にあるイトーヨーカドー一店に入りました。お店で働くのは工場より楽しくって、日本語を話すチャンスがたくさんありました。お客さまたちはいろいろと食べ物のことを聞くので、そのための言葉を覚えなければならなかった。日本はモンゴルより男が強い国で、モンゴル女性にとって大変でしたけれど“どこかに住んだら、その国の文化を守ってください”というモンゴルの古い言葉で我慢して頑張りました。

日本で生活した最初のころ、いろいろ勉強したことが私にとって今では良い経験になりました。
2005年に日本から帰ったらすぐ銀行に入りました。仕事でたくさんの日本人と会話することが多くありました。やっぱり困っている人を見たら、私も日本で困っていたころを思い出して、“ありがとうございます”という返事を早く聞きたいという気持ちを強く持ちました。



2007年にオーストラリアの大学院に行って、その時も仕事の関係で日本人と親しくなって、日本語で話せるチャンスがありました。その後モンゴルに帰り結婚し、一児の母として幸せな日々を過ごしながらも、モンゴルで一番大きな飲物会社のマーケティングで働いています。今も日本語を使える時間が時々あります。

日本語を勉強しことは私の世界でもう一度窓が開いた感じがします。全然忘れない良い思い出です。
(Indra Batsaikhan)

香芝市在住外国人数 26ヶ国 484名

2015年9月30日現在

アメリカ:6、イギリス:4、インド:3、インドネシア:4、オーストラリア:3、カナダ:1、韓国:237、カンボジア:3、スイス:1、シンガポール:1、タイ:11、台湾:10、中国:107、朝鮮:8、チュニジア:1、ネパール:17、パキスタン:6、バングラディッシュ:4、ブラジル:14、フィリピン:19、フランス:1、ブルガリア:6、ベトナム:14、ペルー:1、ポーランド:1、ロシア:1

大阪教育大学 ホームステイプログラム()

アメリカ・ノースカロライナ大学の学生、 さんを 月 日～ 日、グローバル香芝の依頼で一泊ホームステイの受け入れをしました。

さんは、大阪教育大が実施する 週間のインターンシッププログラムに参加する研修生です。このインターンシッププログラムは、“ ”と称し「日本の教育現場を視察し、訪問校の異文化理解教育の一助となる」ことを目的としています。プログラムの締めくくりとして一泊ホームステイも含まれていました。



大学で行われた対面式を終えて自宅に帰り、彼女が滞在する二日間で私

さんの希望を聞きました。その後、彼女の希望に沿った夕食の為のお買い物と一緒に出かけました。彼女はとても明るくフランクで、好奇心旺盛な性格だった為、こちらも気負うことなく、家族の一員として迎え、共に団欒を楽しむことが出来ました。

既に奈良市や大阪に行ったとの事でしたので、翌日は明日香村を訪ねる事にしました。万葉資料館へ案内し、その後日本で一番古いお寺・飛鳥寺と一番古い大仏様・飛鳥大仏を訪ね、のどかな田舎の美しい風景を楽しんでもらいました。大変喜ばれてまた日本に来る機会を是非作りたいとのことで再会を約束しました。

また、月 日午前中にこのインターンシップ・プログラム参加者全員の最終報告発表があるとのことでしたので、 さんの発表が聞きたくて参加をしました。アメリカからの 名の学生の日本の教育現場に関する発表で興味深かったのは、 と題して訪れた日本の小学校での映像と共に述べられた感想です。“

！”と校庭にクラスの人数分、同じように並べられた鉢植えとスコップを持ち、同じように土を掘る生徒たちの映像でした。個を大切にする自国との文化の違いでしょうか。アメリカでは日本のように皆が同じことをする教育場面は見られないとの事でした。



報告発表会の最後に、長谷川先生がグローバル香芝の説明と共に神野さんからのプレゼント 円玉を「ご縁」の意味を説明しながらお渡しくださっていました。生徒の皆さんが大変喜んでくださっていましたのでご報告させていただきます。

その後、インターンシッププログラムの修了証書授与式があり、パーティが行われました。研修生たちのお世話をしていた日本の学生も含めて、和気藹々とした修了式で、久しぶりに学生に戻ったような気分になりました。また、彼等から元気をもらいました。このような機会を与えて頂けたことに感謝します。

(坂本悦子さん)

2015年上期 大阪教育大学留学生修了式(2015. 8. 11)

8月11日(火)大阪教育大学の食堂において留学生修了式が行われ、特別聴講学生28名、日本語・日本文化研修生17名 合計45名が終了証を授与され、めでたく1年間の日本留学を終えました。修了式の後国際交流会が開かれ、参加した我々16人のメンバーも終了生たちと楽しい歓談のひと時を過ごしました。今回の修了者はいままでで最高の人数だと思います、この子たちの将来と母国に帰り日本の事を母国の人たちに広く伝えてくれるのを願いながら最後の別れとなりました。今後ますます留学生の増加が予想され、グローバル香芝の日本語支援のメンバーの増強の必要性を感じました。(平岩)

第 52 回 国際理解セミナー(2015.8.8.)

『私の母国ハンガリー —人々の暮らしそして文化—』



1994 年に始まって以来、52 回目を迎えた今回の国際理解セミナーは、ハンガリーからの留学生フィゼレ・キティさんとベネデク・ジョルトさんを講師にハンガリーについていろいろお聞きしました。

地図や映像でのハンガリーについての知識は、ヨーロッパ中央に位置し首都はブダペストといった程度でしたが、今回のセミナーでは一般的な情報(場所、国旗、国章、首都など)から始めて、ハンガリーの名所、名物、有名なもの、世界的な著名人や発明、世界遺産・国立公園、主な行事と祭等々、数多くの写真をプロジェクターを使い、ハンガリーの豊かな自然と文化、そして人々の暮らしや講師自らの家族・日常生活の一端を紹介。所々でクイズを出して聴衆の皆さんと話を交わし、正解者にはお二人が準備したハンガリーの土産をプレゼント。ハンガリーをより身近で親しみやすいものにしてくれました。

そして、民族衣装で始まった伝統の舞踏はまさしく序・破・急、お二人の熱演に会場から熱い拍手。舞踏は学校で授業があり、お二人は大学でも続けているとのこと、伝統文化を大事に守り続けているお国柄を垣間見た思いでした。

今回のセミナーはキティさんジョルトさんを通して、ハンガリーの空気に触れた思いで、グローバル香芝が目指す草の根レベルの国際交流にふさわしいものであったかと思えます。

あらためて、キティさんジョルトさんに感謝するとともにお二人の幸せを願います。

(神野)

参加者からの感想(抜粋)

- ・「素敵な国ですね。ぜひ行ってみたいです。楽しいお話に、キティさんのお人柄も加わって、よい時間を過ごさせていただきました。国の伝統を大切に守られているんですね。」
- ・「母国愛に満ちた誠実な説明で、楽しくハンガリーの様子を知ることができました。」
- ・「踊りは小さいころから身につけられてるのか、よく覚えておられるなと思いました。」
- ・「今日も楽しい催しをありがとうございました。楽しい踊りと音楽もありよかったです。」
- ・「刺繍がとってもきれい。少し日本にも似ているように思いました。」



2015 年度第 2 回日本語勉強会に参加して(2015. 9. 5)

今回初めて井上先生の日本語勉強会に参加させていただきました。私は 1 年ほど前から知り合いのアメリカ人に、週 1 回スカイプで日本語を教えているのですが、あまりうまく行かず、相手の方に申し訳なく思っていました。今回の勉強会では、文法を系統だって教えることの大切さや、いかにわかりやすい言葉で説明するかということの大切さを学びました。また形容詞や形容動詞の簡単な分類のしかた(イ形やナ形)や、「名詞文」「存在動詞文」という文の種類なども教えていただき、とてもわかりやすかったです。これから少しずつ日本語の教え方を勉強して、外国人の人に質問されたら、すぐに答えられるようにしたいです。

(北川)

—メンバーひとりごと 52—



“Dreams come true”

則松 武夫

グローバル香芝の会員になったのは今から 年前で、会社勤務時代に通算 度、年間を海外で暮らし、現地の人達にいろいろお世話になり、何かそのお返しができないものかとの想いが入会の動機です。

現在、翻訳以外の活動ができていませんが、来年には学校でのフルタイムの勤務を終える予定ですので、本格稼働はそれからにしようと思っています。

私の 年間の海外勤務は、入社 年目の 年に日墨交換留学生の一員として 年間メキシコシティで暮らした事に始まります。メキシコ人の家庭にホームステイすることで、彼らの生活を生で体験できた事はその後の海外生活の基礎となったように思います。

その後日本に戻り、年後の 年、アルゼンチンのフエゴ島に 年半単身赴任しました。最近、時々テレビ番組で紹介されるウスアリア市の北にあるリオ・グランデ市に住み、激動の時代を過ごしました。年間インフレが %を超える、信じがたい貴重な体験をしました。元気な内に、この時苦楽を共にした現地スタッフに会いに行きたいと思う次第です。

度目の海外生活は家族と共に過ごしたマイアミでの 年半でした。家はマイアミのプール付き豪邸(?)で、仕事場は中米 各国(コスタリカ、エル・サルバドル、グアテマラ)に 社ずつある会社です。日常の経営は現地人に任せていたので、私の仕事は毎月 日間位で各社を巡回することでした。人の子供達はいきなりの英語での学校生活に戸惑いながらも高校を卒業後、日本に帰国しました。

度目は 年からのバタム島(インドネシア)での 年間の単身赴任です。いずれも今では懐かしい思い出です。

年代、これからの 年は中南米の時代だと言われましたが、残念ながら現実には厳しいものがありました。中南米は日本人には親しみ易い国々です。来年のリオデジャネイロ五輪を契機に中南米が再び注目される事を切に願う今日この頃です。

*次回は、小椋宏子さんです

<行事予定> *11月:国際理解セミナー(11 29)

*2月:日本文化()、国際料理教室 国際理解セミナー

*3月:日本語勉強会

◆◆ “グローバル香芝” 入会のご案内 ◆◆

香芝市の国際交流に参加できる個人や団体で国際交流に興味をお持ちの方、私達と一緒に活動しませんか。語学力や国籍に関係なくどなたでも入会することができます。

会費	個人会員	年間	円	/	賛助会員(団体)	年間	円
月例会	~	香芝市中央公民館	(水)	(火)	(水)	(火)	(水)

◆申し込み・問い合わせ先

香芝市役所・市民協働課内事務局 (:) 内線 (:)

グローバル香芝:河合喜美子(:) または神野俊幸(:)

までお気軽にどうぞ!

◆ホームページアドレス

[matrix](#)

編集発行 : グローバル香芝・広報部会

事務局 : 〒 香芝市本町 香芝市役所 市民協働課

: (内線) :